

## 四日市「塩浜・磯津」を歩く

今年最高の猛暑のなか、近鉄の塩浜駅からコンビナート地帯を通過して磯津に向かった。こうして、実際に四日市のコンビナート地帯を歩くのは久しぶりだ。「昭和四日市石油」南門から、広大な工場のなかを垣間見ることができた。大型タンクローリーがスピードをあげて走り去っていった。鈴鹿川にかかる磯津橋を渡って海岸の方に進むと、磯津漁港が見えてきた。大漁旗を掲げた漁船が並んでおり、漁港らしさを漂わせていた。



磯津の漁民で原告患者の野田之一さんは判決から27年経つ朝日新聞1999年7月27日夕刊で次のように語っていた。「公害がなかったら、どんな漁師になってたかと思う。公害はなくなっていない。だからまだ、ありがとうと言えない」記事では親子3代、15歳から海で鍛えた太い腕の血管は、何千回もの注射で青黒く腫れていると、野田さんを紹介している。



漁港から砂浜の方に降りていくと、遠くに三菱化学や石原産業などの工場が見えた。磯津の対岸には、延々とコンビナート企業が連なっているのだ。先の記事では、これら被告企業は「磯津への影響度は八百畳でマッチ1本擦ったようなもの」（昭和四日市石油）、「煙は磯津に行かない」（石原産業）と争ったと述べている。1972年7月24日、米本裁判長は「被告6社の排煙による大気汚染が健康被害を起し、集団で操業しているので共同不法行為が成立する」と被告企業を断罪した。



34年前の判決を思い出しながら、コンビナート企業をじっと眺めていた。磯津の海岸には、わずかながら自然の砂浜が残されていた。「環境再生まちづくりプラン」を考えていくうえで、ここに一つのヒントがありそうだ。四日市の過去から現在、そして未来を考えさせられた塩浜・磯津めぐりであった。

(2006年7月3日 記)